



# 実質、一回の交渉で終り?



2005 年度人事院勧告に伴う団体交渉報告集会に参加して

24 日午後 6 時、くすのき会館和室において団体交渉報告集会が開催されました。22 日の交渉には学長が参加するということでしたので、僕自身参加したかったのですが、日程の都合がつかず参加できませんでしたので、どのような交渉になったのか楽しみで、この報告集会に参加してきました。でも結局はたいした交渉にもならなかったようです。

## 3 回目の交渉内容をちょっと紹介

はじめて学長が出席し、財務諸表および組合が要求していたデータの提示があり、ようやく賃金交渉のスタートに立ったという感じだったようです。しかし、使用者は相変わらず「人勧に準拠しなければならない」というだけで、0.3% の給与を下げなければ経営が成り立たないなどの説明は、なかったということ。また、組合は「7 億円ほどの大学の純利益があるのであれば、賃金の引き下げ等はいらないのではないか」の質問に対しては、「予定していた人件費 190 億円を 7 億円ほど超えてしまったので、人件費にあてた」ということだ。ただ、この 7 億円がいったい人件費の何にどれほどあてられたか等の説明は一切なかった。また、財務諸表等の提示があったので、組合としては「持ち帰り、賃金要求については見直しを検討し、その上で交渉の継続を」と求めたが、学長より議論は出尽くしたとされ、一方的に交渉の打ち切りを宣言したようだ。

僕が思うに使用者側トップが「人勧準拠」しか言わないのは、文科省の息のかかった人達なんで、下手に熊大だけで、突出したことをしたくないだけであり、経営がどうのなんてさっぱりわかる気もないんだろうね。ま、そんな本省から来た人達は、もともと本省並みの手当が付くんで、給与が民間より低くなったことがない人達だから、熊大職員の民間より低い給与なんて、実際どうでもいいんでしょう。ほんと「熊大で働くんだったら熊大給与で働いてみたらどうだ」って感じで、ついつい感情が高ぶってしまいます。それに議論にもなっていないのに「議論は出尽くした」ってどういうことなの学長??。あなた達は何のデータも出さないまま、過去 2 回の交渉で「人勧準拠しかない」としか言わず、ギリギリの交渉でデータ出して、何が「議論は出尽くした」なのよ。それに聞いたけど、交渉後の 24 日の役員会および評議会で「賃金改定について」決定したそうじゃない。過半数代表者の意見も待たず、なんて使用者側の傲慢なんだろうね。そうそう、傲慢といえば赤煉瓦 21 号「教員の個人活動評価」でも、ワーキングの意見を無視した学長および評議会の対応…。ホントどうしちゃったんだろうね。僕が知る限り、いい先生達ばかりだったのに、個人的には「教員個人活動評価ワーキンググループ」に頑張ってもらいたいです。



それと、過半数代表者の方には、使用者側から意見を求められても、態度が態度なだけに、意見を出さないでほしいです。お・ね・が・い。

ここんところ、文字ばかりで悪いけど、これくらい書いても気持ちが収まらないのよね。ということで、今回はこの収まらない気持ち第 2 弾。

# おもしろくはないかな…。

熊本大学教職員組合青年部機関紙  
やまくら ~ ズ 発行 No.18 2005/11/28